

4世代同居家族バンザイ!

この2組のご家族は、昨年健康福祉まつりで「四世代バンザイ」にご応募いただいたご家族です。皆さん、いつまでも仲良くお元気で。



▲守屋 裕充さん 昌江さん
達矢くん 照子さん 開矢くん 光江さん
(東大戸)

三好 淑子さん 一郎さん
倫子ちゃん 哲美さん 誠一くん 孝一さん 立子さん 千裕ちゃん
(東大戸)



展覧会のご案内

「竹喬の素描 初公開作品を中心に」

2月6日(日)まで

常設として小野竹喬作
「樹間の茜」など約50点
もあわせて展示しています。



〒714-0087
笠岡市六番町1-17
Tel.63-3967
ホームページ
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

「正月、京の鴨川原は子供たちのタコ上げの好場所であった。そのタコは比叡山上の空に高くあがった。田園では注連飾りが立てられる。さては新雪の面白さ。ぼたん雪などの風情も春である。」

新年を迎え、「天皇の世紀」の挿絵にも新春にふさわしい絵柄が取り上げられている。冒頭の画家の言葉にも正月らしい景物が登場する。

南天は、「難転」「成天」の音に通じることから縁起が良い植物とされて、赤い実は正月の飾りなどにもよく使われる。その南天の枝や葉の間に、まだ新しそうな雪がわずかにとどまって描かれている。明るい印象の絵だが着色は最小限にとどめられていて、画面のほとんどは白黒だ。それにもかかわらず、中央の雪のやわらかな白さが、部分的につけられた葉の緑色や実の赤色をいっそう鮮やかに見せている。背景にわずかに施された金色も、目立たないながら華やいだ印象を作り出すのに一役かっているようだ。



「冬の南天」

小野竹喬 作
朝日新聞「天皇の世紀」挿画
昭和43年1月10日掲載
14.5×18.0cm

竹喬美術館の光彩 25

今月の表紙

阿部山越しに昇る初日の出を浴び、かさおか古代の丘スポーツ公園のシンボル、高床式の見晴台が金色に輝き始めました。

古代から変わることのない太陽の輝き、その変わらない光は今も私たちに降りそそぎ、恵みをもたらしてくれています。

2005年は、土地利用計画に基づき線引きの見直し作業が始まる年。

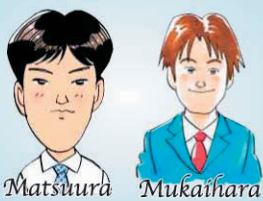
今、希望の光を浴びて新しい笠岡の幕が明けようとしています。

係から

新年明けましておめでとうございます。

平成17年は酉年。鶏は、世界中で予言の動物とされています。ギリシャ神話では「人間が知ることの出来ない未来のことも予知できる」と書かれていますし、日本では「神のお告げを知らせる使い」と信じられ、神社の入り口に鳥居が設けられています。

財政面では、非常に厳しい笠岡市ですが、今年の干支にちなんで初日の出のように輝かしい未来を予言し、活気あふれる笠岡になればと願っています。(松)



発行日/平成17年1月1日
発行/笠岡市役所
編集/まちづくり推進課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
Tel.69-2110

印刷所/株式会社正文社印刷所 ☎66-1687

笠岡市ホームページ: <http://www.city.kasaoka.okayama.jp>
メールアドレス: machizukuri@city.kasaoka.okayama.jp



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。



古紙配合率100%の再生紙を使用しています